



おうち

テーマ

自分でやるよ

第31号
2017.9

私が小学校六年生の時です。修学旅行先の旅館で、布団敷きの手伝いを買って出たことがあります。「人の役に立ちたい」という気持ちはありましたが、「早く終わらせて友達と遊びたい」という気持ちもあつたように思います。布団を敷き終えた時、従業員さんが、「ありがとう」と声をかけてくださいました。翌日、バスの中で、「いいことをしたね」と先生にほめていただきました。従業員さんが、先生に話してくださいました。旅の御主人にも、「この学校は、すばらしい学校だ」とほめていただいたそうです。自分たちのしたこと、学校全体がほめられたことに少し驚きましたが、心からうれしいと思いました。自らの意思で行動したことが、誰かに認めてもらえるということは、実に誇らしいことであるということを実感しました。今でも心に深く残る思い出です。

自分が親になつてから、子どもが自立したなあと感じたのは、今日から一人でお風呂に入るから大丈夫と息子が宣言した時です。少々寂しさもありましたが、このような形で、自立の一步を表現した息子を頼もしいと思いました。

自分の子育てを振り返ってみると、私は、仕事の合間を縫って、できるだけ子どもと同じ時を過ごしながら会話を楽しみ、応援してきました。夏休みに、息子とホームセンターに買い物に行き、いろいろな話をしながら鳥の巣箱を一緒に作ったこと

もありました。部活動の試合にはできるだけ応援に行き、夕食をとりながら、楽しかったことや悔しかったことなどについて語り合いました。家以外の場所でも、子どもと同じ目的を持って、同じ場所で同じ時間を過ごすことができたことは、私のその後の人生を豊かにしてくれた宝物です。

人は誰しも、心の中に思い出をしまつ「袋」を持っています。子育て時代は、その「袋」の中に、子どもと一緒に過ごして楽しかった時間や経験などをギッシリ詰め込むことができる時代です。仕事も子育ても一生懸命やらなければならぬ大変な時ですが、人生で最も充実し、子どもと一緒に自分も成長できる時代だと思います。よく「子を持つて知る親の恩」と言われますが、私も子育てをしながら親のありがたみにも気付かされました。子育て真っ只中のお父さん、お母さんは多忙な毎日を送っていることでしょう。でも、今しかないこの輝いている時を大切に、子どもとともに成長してほしいと思います。

幸いにも、栃木県は豊かな自然環境に恵まれています。栃木県の子どもたちには、この自然環境を生かして存分に野山を駆け回り、感性を磨き、強さや優しさを身に付け、心身ともに健康に育つてほしいと願っています。私たち大人は、そのような子どもたちを温かく見守り、認めていくことが大切なのではないかと思っています。



「たまいれ」